

2020年度
青少年のインターネット・リテラシー指標等
に係る調査結果

2021年4月

総務省総合通信基盤局
電気通信事業部
消費者行政第一課

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果
－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－
2. ILASの実施概要等
3. 2020年度ILASの結果
4. 高校生のインターネット利用実態
5. フィルタリング利用状況
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果 (クロス集計)
7. 参考

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が必要。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施（以下、本資料において「高校生」とは高等学校1年生を指すものとする。）。
- 今年度は、協力を得られた74校の高等学校において、2020年10月から2021年1月にかけてテスト及びアンケートを実施。その結果を集計・分析し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標（ILAS：アイラス）等に係る調査結果」として取りまとめた。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2009年4月1日施行）

【基本理念】

- ①青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み）、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（2011年10月）

2. 各関係者に求められる役割等（中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会（2011年9月～2012年3月）

教育工学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男（一橋大学名誉教授）、渡部洋（東京大学名誉教授）（座長）赤堀侃司（白鷗大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）

2. ILASの実施概要等

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2020年10月から2021年1月にかけて、全国74の公立・私立の高等学校において、計12,499名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

所在地区分 (11地域)		設立区分		協力人数		平均点	
特別区等	9校	公立 私立	65校 9校	男性	6,381人	男性	34.4点 36.2点
中核市	9校			女性	6,105人		
その他	56校			性別無回答	13人		
計 74校				合計 12,499人		全体 35.3点 (49点満点)	

100%換算で72.0%
(前年度：68.7%)

(次ページ以降、100%
換算で示す)

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会」（2011年9月～2012年3月、座長：赤堀侃司白鷗大学教授）において、OECDの「インターネット上の青少年保護に関するレポート」（2011年5月）におけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）に関し、以下の項目に整理。

【青少年に必要なリスク対応能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力【違法有害情報リスクへの対処能力】

- 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。【違法情報リスク】
- 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。【有害情報リスク】

2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力【不適正利用リスクへの対処能力】

- 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。【不適切接触リスク】
- 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。【不適正取引リスク】
- 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。【不適切利用リスク】

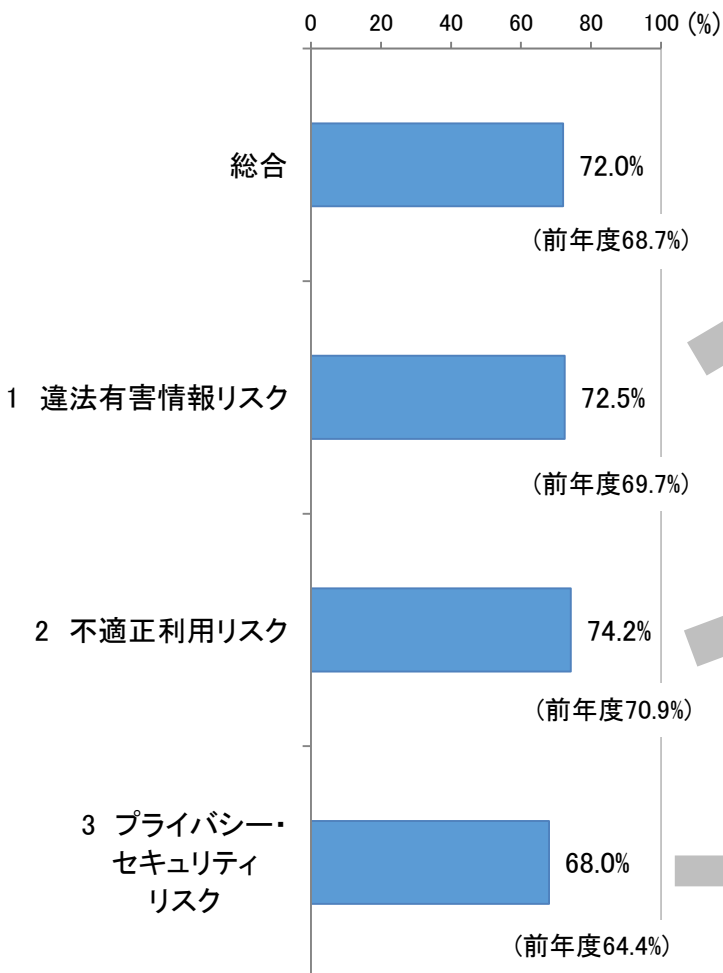
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力【プライバシー・セキュリティリスクへの対処能力】

- プライバシー保護を図り利用できる。【プライバシーリスク】
- 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。【セキュリティリスク】

3. 2020年度ILASの結果（結果概要）

- リスクの大分類別については、「3 プライバシー・セキュリティリスク」（68.0%）が比較的低い。【図表1】
- リスクの中分類別については、「2c. 不適切利用リスク」（81.5%）、「2a. 不適切接触リスク」（79.3%）は高く、「2b. 不適正取引リスク」（61.9%）、「3a. プライバシーリスク」（66.2%）が低い傾向である。【図表2】

【図表1】正答率(大分類)



【図表2】正答率(中分類)

総合	72.0%	(前年度68.7%)
1 違法情報リスク	72.5%	(前年度69.7%)
1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	76.0%	(前年度73.4%)
1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	69.1%	(前年度66.0%)
2 不適切接触リスク	74.2%	(前年度70.9%)
2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	79.3%	(前年度76.6%)
2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	61.9%	(前年度57.3%)
2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存・歩きスマホ、マナー等	81.5%	(前年度78.9%)
3 プライバシー・セキュリティリスク	68.0%	(前年度64.4%)
3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	66.2%	(前年度62.0%)
3b. セキュリティリスク ID、パスワード、ウイルス等	69.9%	(前年度66.8%)

3. 2020年度ILASの結果（過去結果との比較）

- 全体の正答率（72.0%）は、過去2015年から2019年度までの結果（67.2%～69.7%）を上回っている。
- 項目別の正答率については、いずれの項目においても、過去2015年度から2019年度までの過去5年間の平均を上回っている。なお、「2c. 不適切利用リスク」以外の全ての項目においては、2015年度以降最も高い結果となり、特に「2b. 不適正取引リスク」と「3b. セキュリティリスク」の上昇幅が大きい。

2b. 不適正取引リスク(フィッシング、ネット上の売買等)	: 57.1%(2015年度)→61.9%(2020年度) ※4.8ポイント上昇
3b. セキュリティリスク(ID・パスワード、ウイルス等)	: 65.3%(2015年度)→69.9%(2020年度) ※4.6ポイント上昇

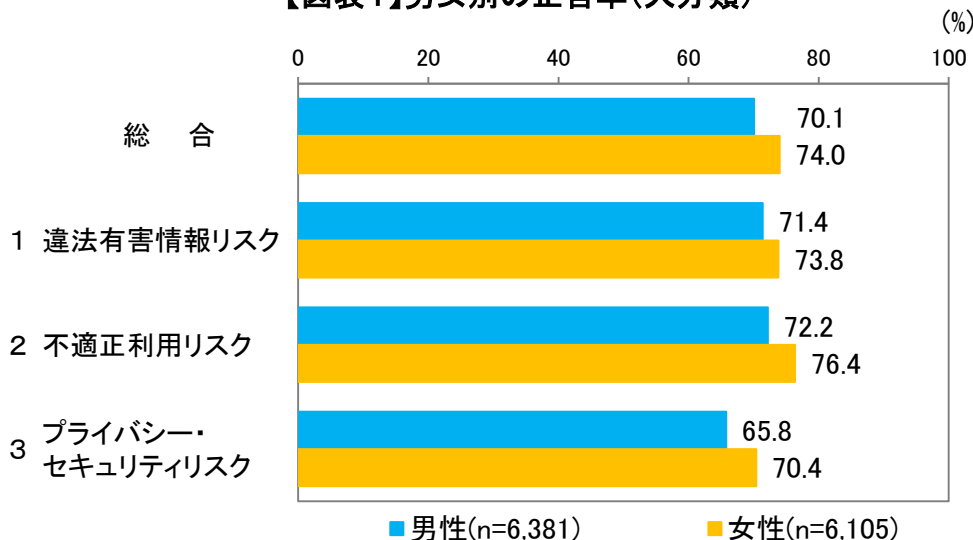
【図表】

リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	2019年度 (n=7,252)	(参考) 過去5年平均	2020年度 (n=12,499)
総合	-	69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.7%	68.8%	72.0%
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、 出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.4%	73.1%	76.0%
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、 閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	66.0%	66.9%	69.1%
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メー ル、SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	76.6%	77.0%	79.3%
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、 ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	57.3%	56.6%	61.9%
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、 歩きスマホ、マナー 等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	78.9%	79.7%	81.5%
3a. プライバシーリスク	プライバシー、 個人情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.0%	62.6%	66.2%
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、 ウイルス等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	66.8%	65.9%	69.9%

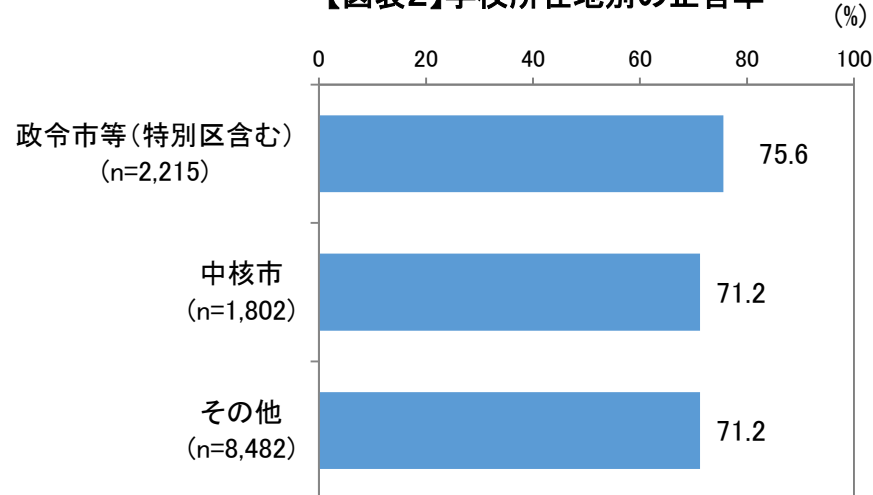
3. 2020年度ILASの結果（男女別及び学校所在地別）

- 男女別では、男性70.1%、女性74.0%と、女性の方が高く、この傾向は例年と同様である。【図表1】
- 学校所在地別では、総合正答率は政令市（特別区を含む）が75.6%で、中核市とその他と比較して高い。【図表2】

【図表1】男女別の正答率(大分類)



【図表2】学校所在地別の正答率



	2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
総合	64.8%	69.8%	66.5%	71.1%	67.0%	72.1%	66.1%	71.3%	70.1%	74.0%
1 違法有害情報リスク	67.2%	70.5%	68.9%	71.8%	68.8%	72.2%	67.9%	71.5%	71.4%	73.8%
2 不適正利用リスク	66.3%	72.4%	68.2%	73.8%	68.6%	74.5%	67.9%	73.8%	72.2%	76.4%
3 プライバシー・セキュリティリスク	60.1%	65.0%	61.7%	66.3%	63.0%	68.3%	61.5%	67.2%	65.8%	70.4%

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
政令市等(特別区含む)	65.2%	68.8%	73.5%	70.7%	75.6%
中核市	68.2%	70.1%	69.3%	68.2%	71.2%
その他	67.5%	68.4%	68.8%	68.4%	71.2%

4. 高校生のインターネット利用実態（利用機器）

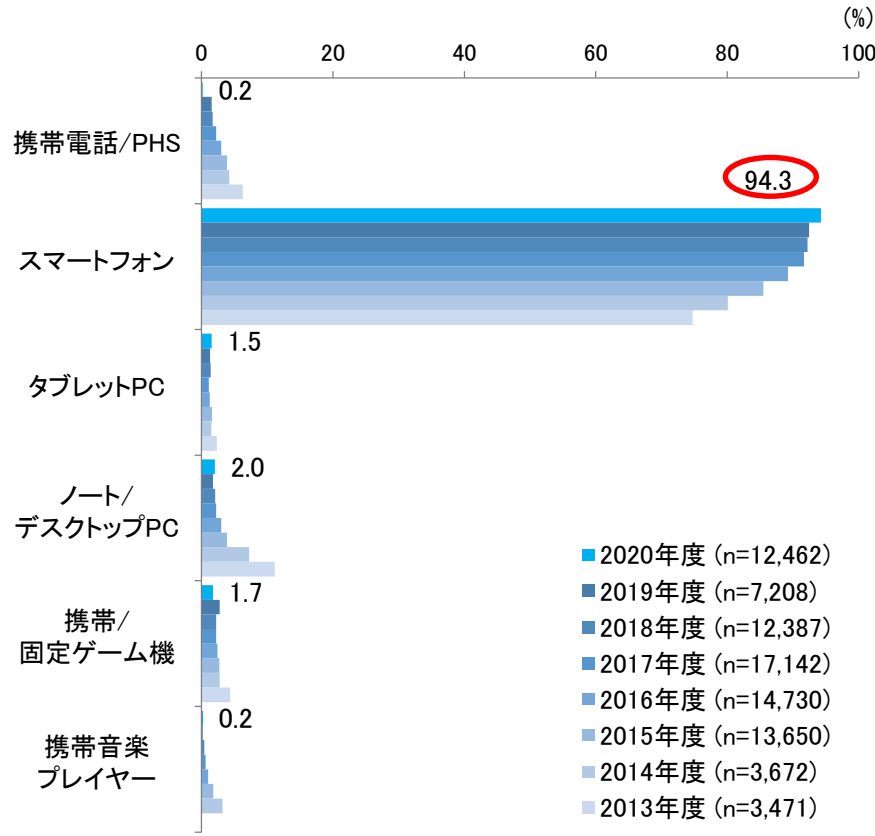
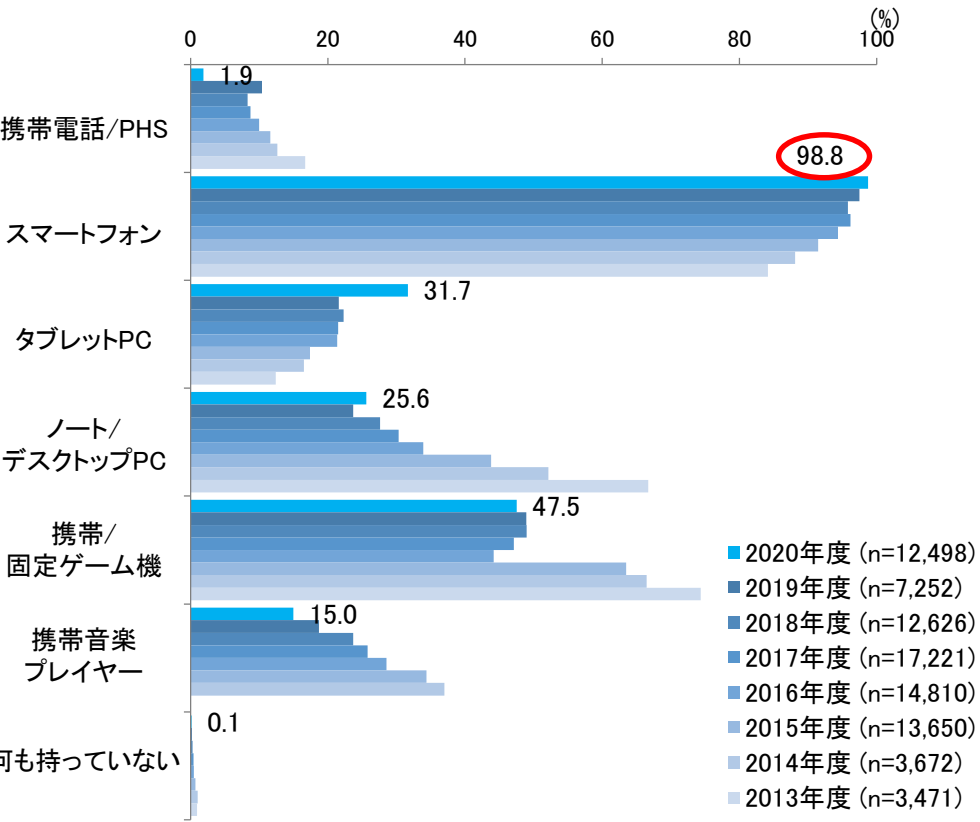
- 高校生の98.8%がインターネット接続機器としてスマートフォンを保有している。過去調査と比較すると、特にタブレットPCは今回急増した（2019年度：21.6%→2020年度：31.7%）。【図表1】
- 保有するインターネット接続機器のうちで最もよく利用する機器として、高校生の94.3%がスマートフォンをあげている。【図表2】

【図表1】保有するインターネット接続機器（複数回答）

あなたが保有しているインターネットに接続する機器を教えてください。

【図表2】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器（択一回答）

左の問でお答えいただいた機器の中で最もよく利用する機器はどれですか。

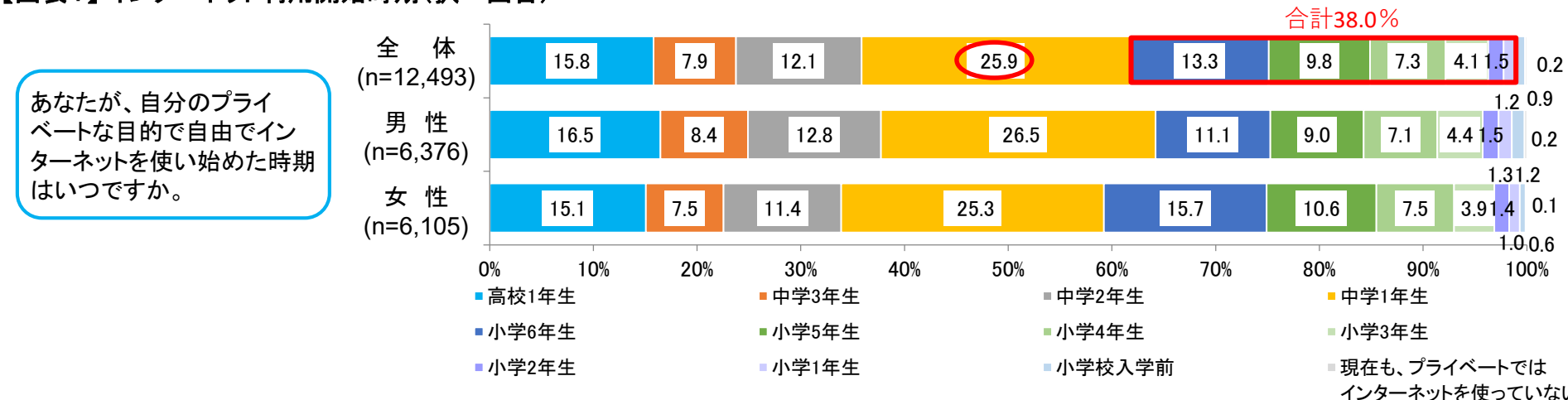


(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

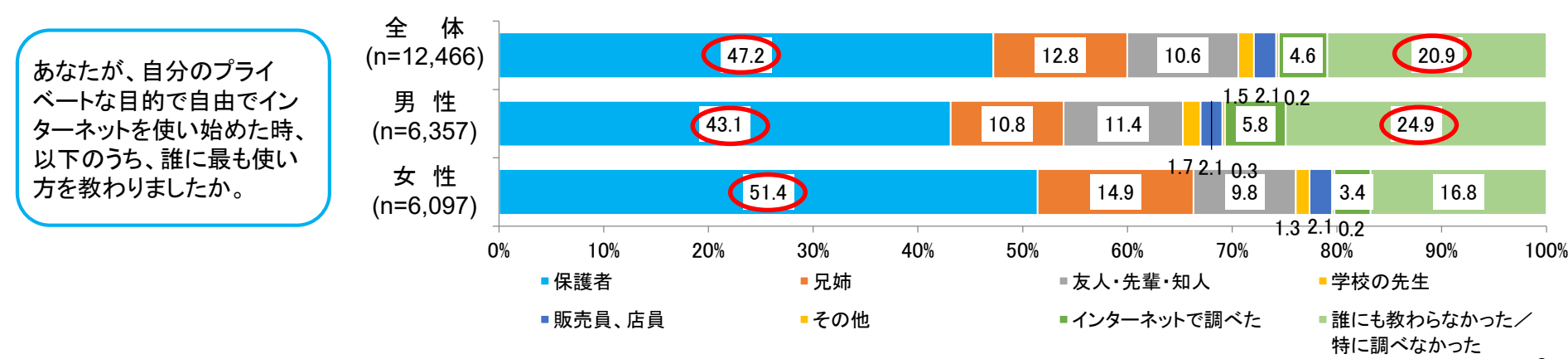
4. 高校生のインターネット利用実態 (インターネット利用開始時期と教えた人)

- インターネットを自由に使い始めた時期について、中学入学前(小学6年生以下)は38.0%、中学1年生は25.9%となっている。【図表1】
- インターネットを自由に使い始めた時期に、その使い方について主に教えたのは、保護者が最も多い(47.2%)。一方、「誰にも教わらなかった／特に調べなかった場合」も20.9%(特に男性24.9%)占めている。【図表2】

【図表1】インターネット利用開始時期(択一回答)



【図表2】インターネット利用開始時に使い方を主に教えてもらった人(択一回答)



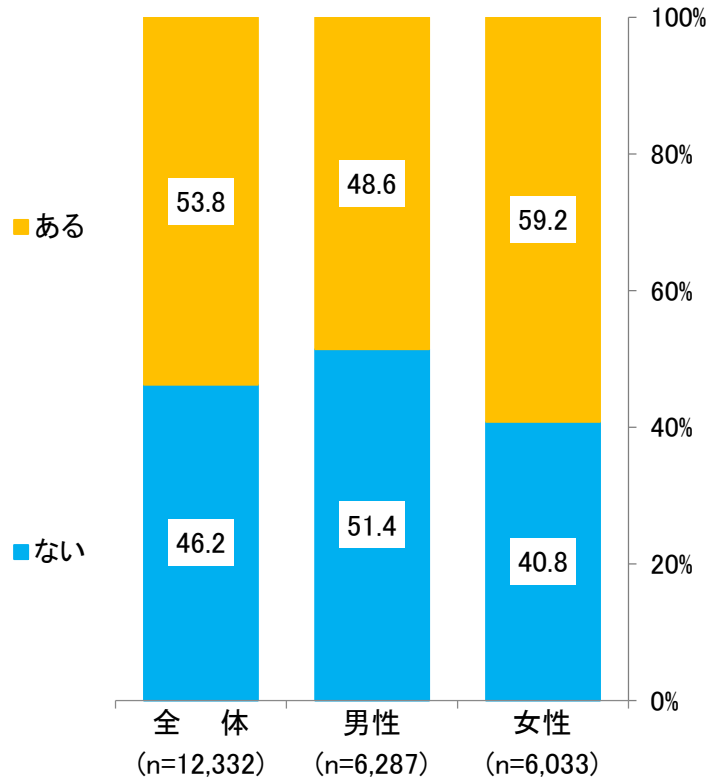
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート (対象はいずれも高等学校1年生) の結果を基に作成。

4. 高校生のインターネット利用実態（家庭でのルール）

- スマートフォン等やSNSを利用する際に家庭でのルールがあるのは全体の53.8%を占め、特に女性は多い(59.2%)。【図表1】
- 家庭でのルールがある場合、その具体内容については、「情報公開（個人情報）の制限」（41.5%）、「使用できるサービス・アプリの制限」（38.1%）が多い。【図表2】

【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)

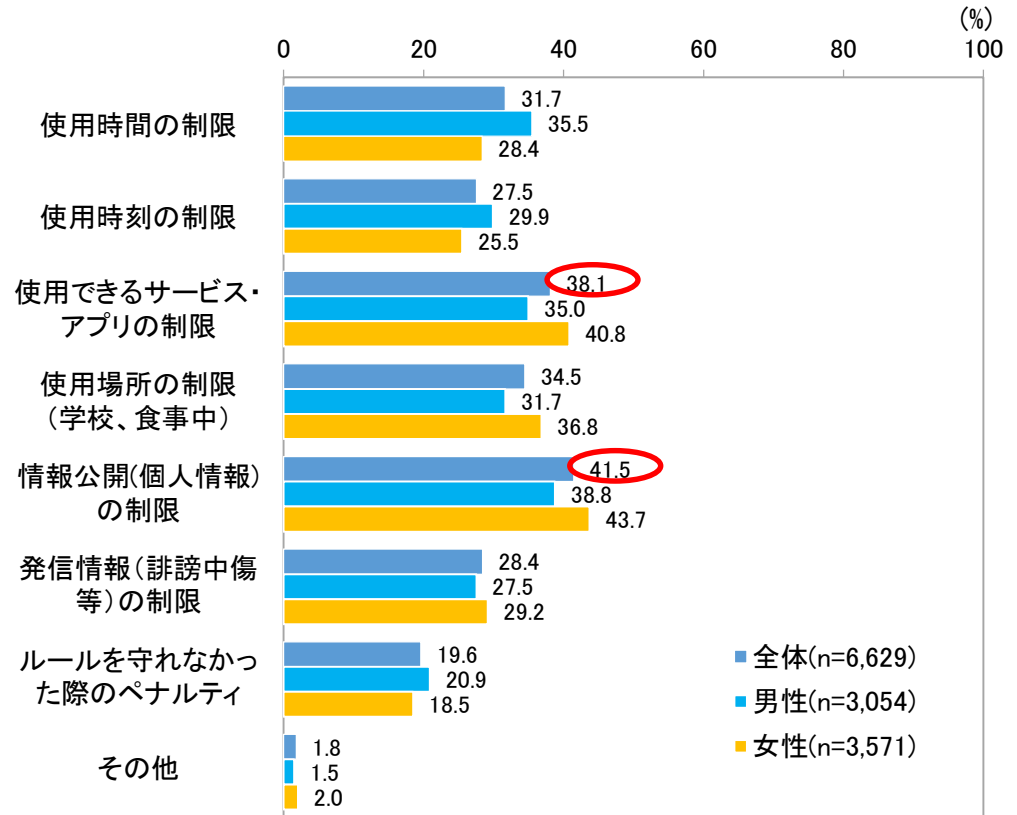
スマートフォン等やSNSを利用する際の家庭でのルールがありますか。



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)

(家庭でのルールが「ある」と回答した者ベース)

家庭でのルールはどのようなルールがありますか。

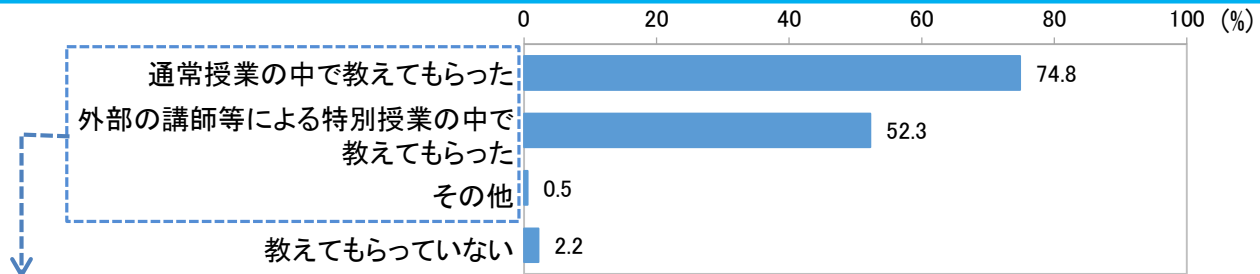


4. 高校生のインターネット利用実態（学校での学習）

- インターネットの危険について教えられた経験については、74.8%が通常授業の中で、52.3%が外部の講師等による特別授業の中で教えてもらっている。【図表1】
- 学校で教えてもらったことがある場合、教えられた内容については、ネットいじめ（87.6%）、個人情報・プライバシー（86.1%）、ネット依存（83.2%）が多い。【図表2】

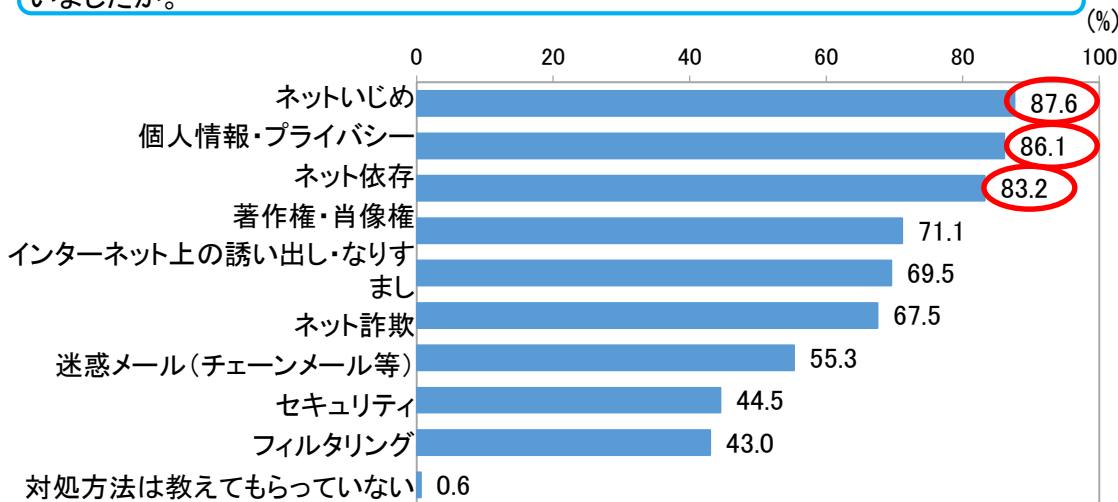
【図表1】インターネット上の危険に関する学校での学習（複数回答）(n=12,375)

あなたはインターネット上の危険について学校で教えてもらったことがありますか。



【図表2】授業で教えられた内容（複数回答）(学校で教えてもらった者ベース n=12,094)

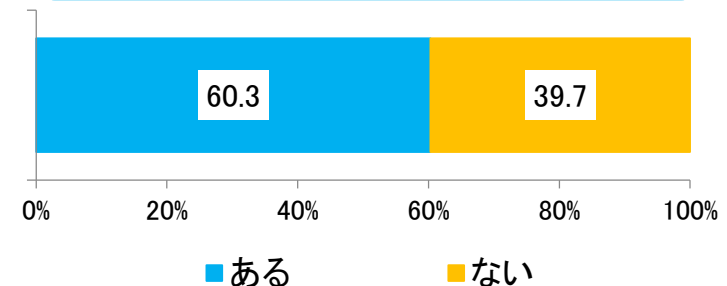
あなたは学校でどのようなインターネット利用上の危険等への対処方法を教えてもらいましたか。



【参考】学校でのSNS利用のルール有無（択一回答）

(n=12,374)

あなたの学校でSNS等のインターネット利用についてルールはありますか。

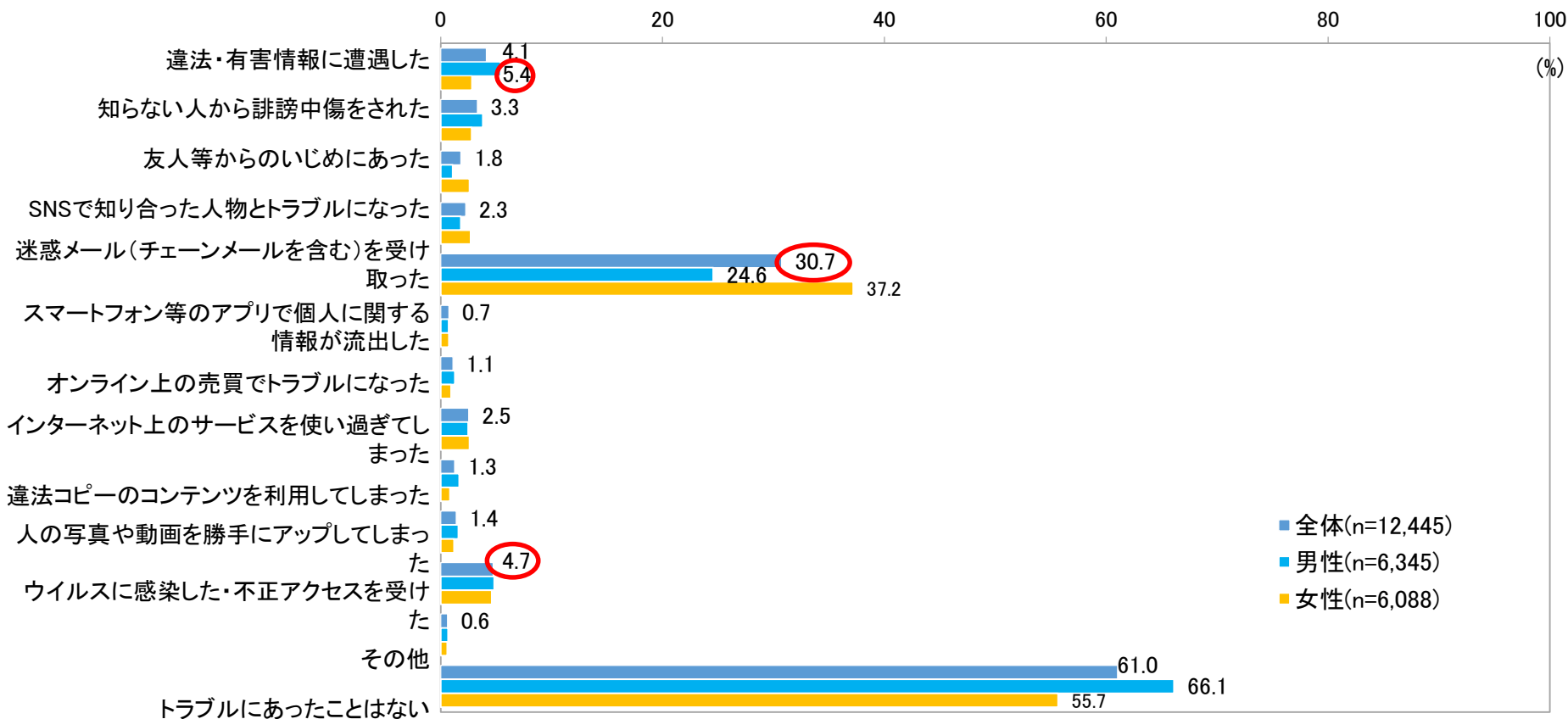


4. 高校生のインターネット利用実態（トラブル遭遇状況）

- 遭遇したトラブル内容については、「迷惑メール」（30.7%）が最も多く、「ウイルスに感染した・不正アクセスを受けた」（4.7%）が続く。なお、男性については「違法・有害情報に遭遇した」の内容がやや多い傾向にある（5.4%）。

【図表】インターネット利用に際して遭遇したことがあるトラブル(複数回答)

あなたはインターネットの利用に際してどのようなトラブルにあったことがありますか。

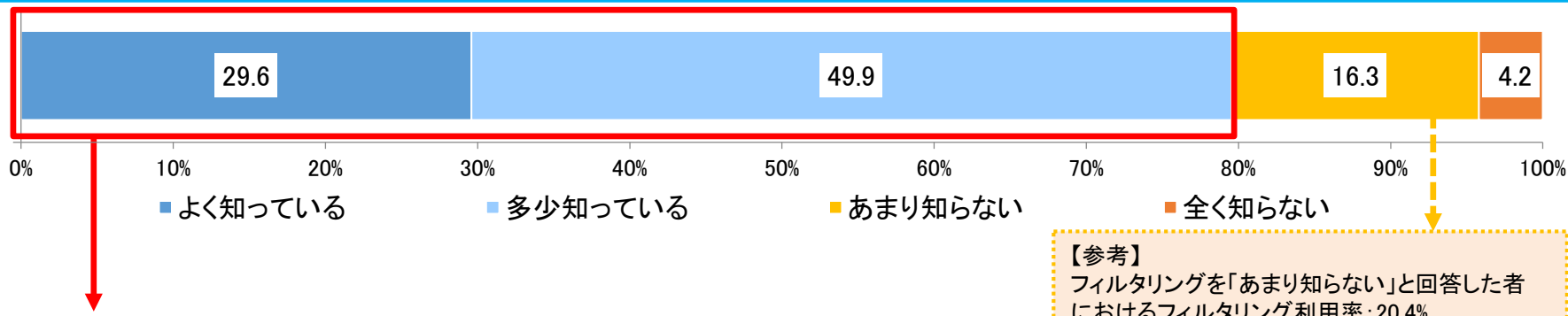


5. フィルタリング利用状況（フィルタリングの認知と利用状況）

- スマートフォンを利用している高校生のうち79.5%（「よく知っている」が29.6%、「多少知っている」が49.9%）が一定程度フィルタリングを認知し、昨年度（74.7%）よりも増加している。【図表1】
- 一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、48.6%がフィルタリングを利用し、15.6%が以前利用していたが、今は利用していない。【図表2】
- なお、フィルタリングについてあまり知らない高校生のフィルタリング利用率は20.4%である。

【図表1】フィルタリングの認知状況(択一回答) (スマートフォン保有者ベース、n=12,343)

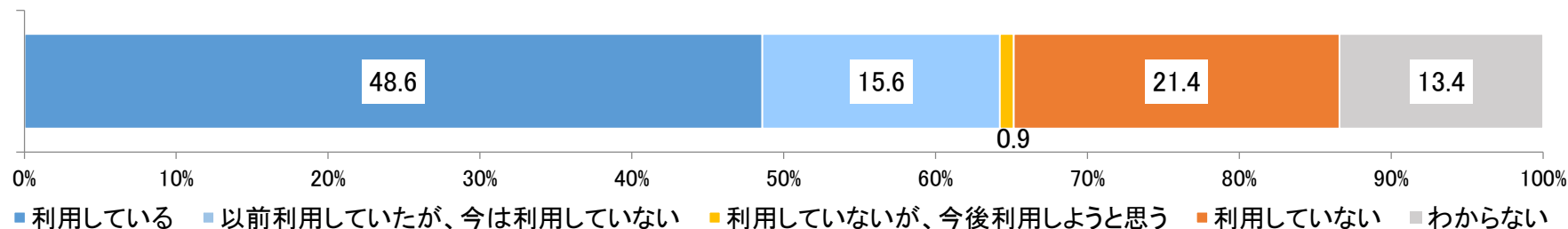
あなたはフィルタリング(あんしんフィルター等のアプリだけでなく、スクリーンタイムやファミリーリンク等のOS機能やサービスも含みます。)を知っていますか。



【図表2】フィルタリングを認知している※高校生のフィルタリング利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース n=9,815)

あなたはフィルタリングサービスまたは機能制限を利用していますか。



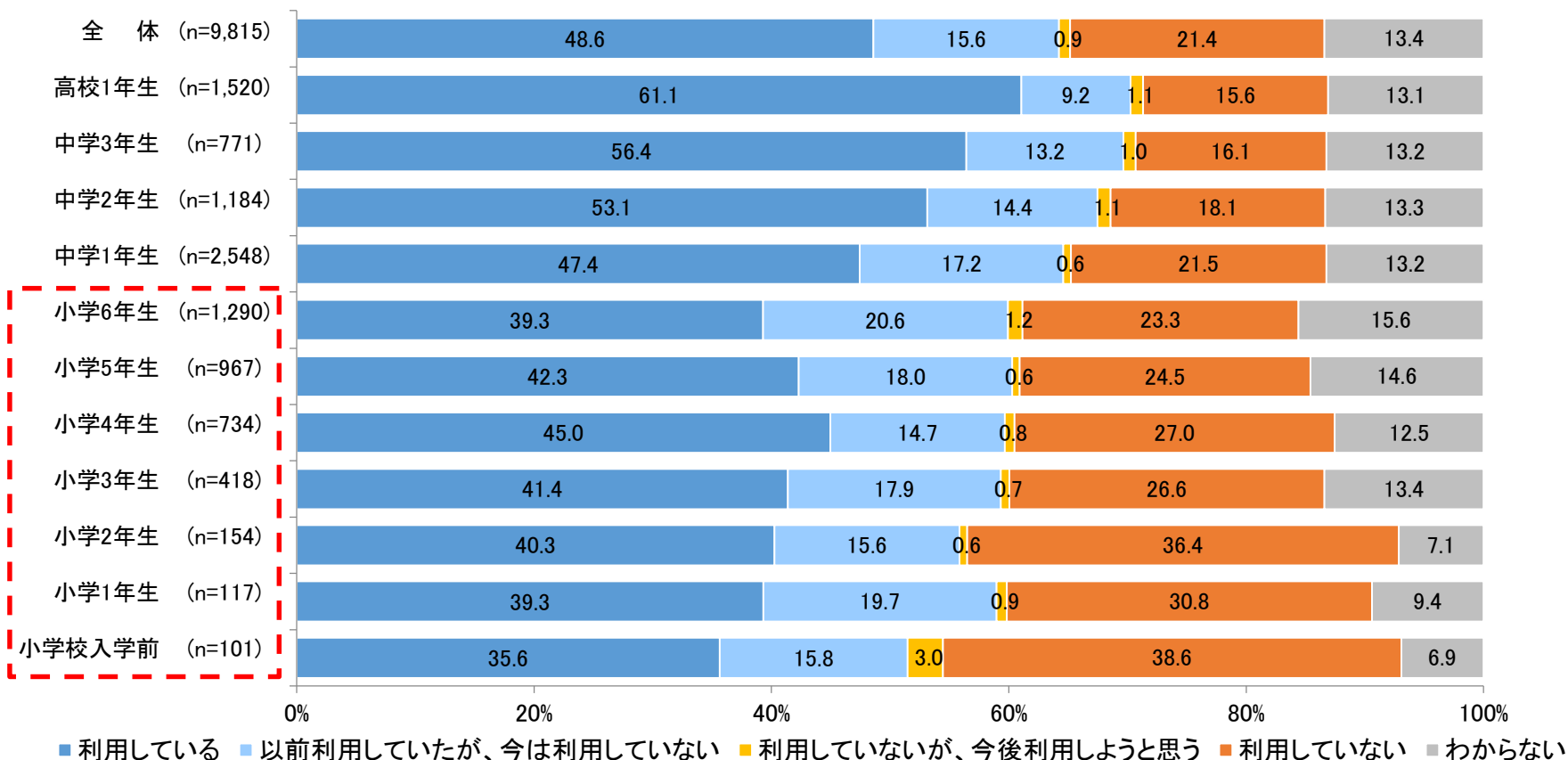
5. フィルタリング利用状況（利用開始時期別の利用状況）

○ 小学6年生以下でスマートフォンを利用開始している場合、フィルタリング利用率は4割前後にとどまり、他と比較して低い。

【図表】フィルタリング利用状況（択一回答）

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）

あなたはフィルタリングサービスまたは機能制限を利用していますか。



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」のサンプル数は少ない(n=6)ため、図表から省略している。

(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

5. フィルタリング利用状況（フィルタリングに対するイメージと利用状況）

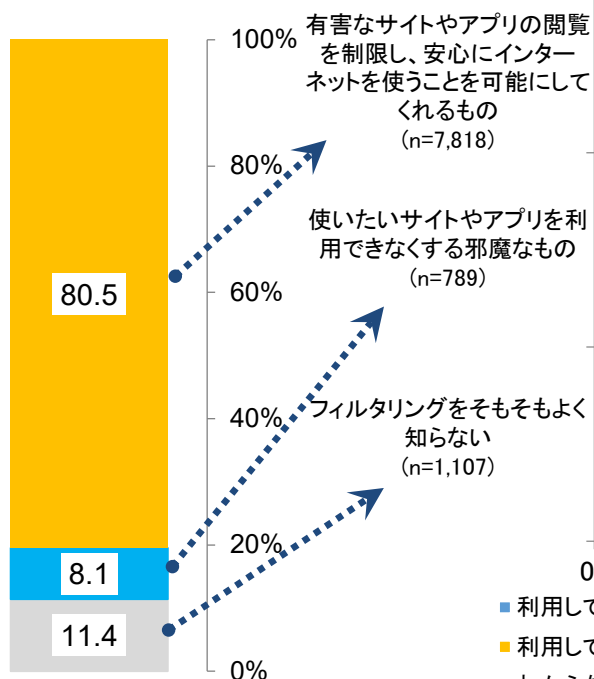
- 高校生の80.5%がフィルタリングを「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」と肯定的に捉えている一方、高校生の8.1%がフィルタリングを「使いたいサイトやアプリを利用できなくする邪魔なもの」と否定的に捉えている。【図表1】
- フィルタリングを肯定的に捉えている高校生の52.3%、否定的に捉えている高校生の38.9%がフィルタリングを利用している。一方で、フィルタリングに肯定的なイメージも否定的なイメージも持っていない高校生のフィルタリング利用率は29.7%である。【図表2】

【図表1】 フィルタリングに対するイメージ(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース、n=9,716)

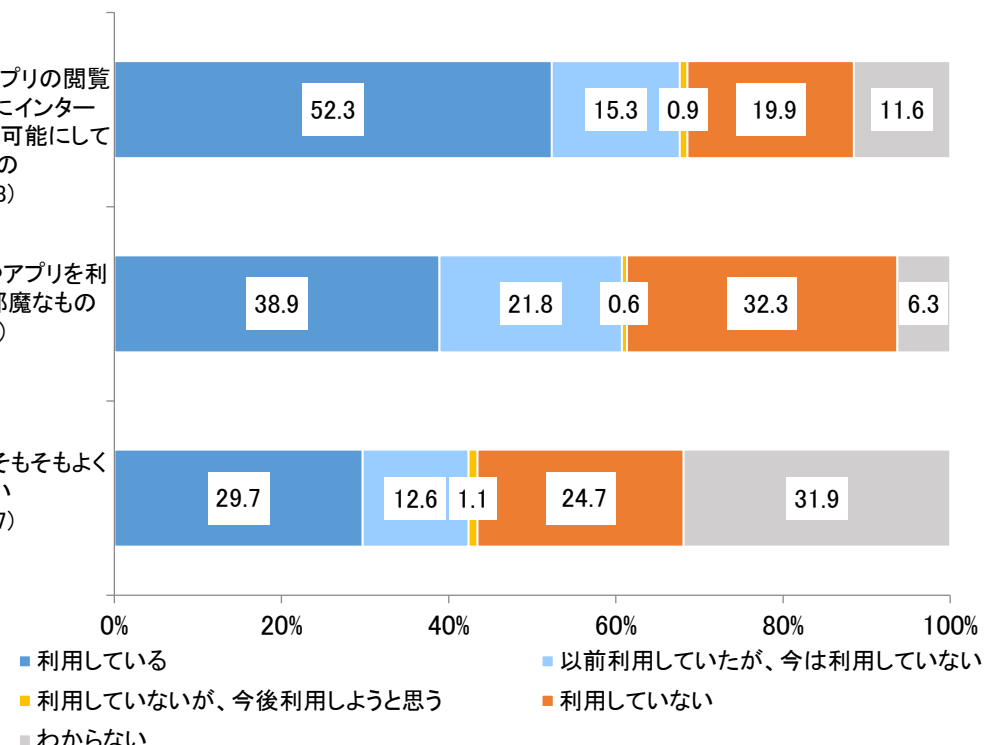
フィルタリングに対してどのような認識を持っていますか

- 有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの (n=7,820)
- 使いたいサイトやアプリを利用できなくする邪魔なもの (n=789)
- フィルタリングをそもそもよく知らない (n=1,107)



【図表2】 フィルタリングに対するイメージごとにおけるフィルタリング利用状況 (択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート (対象はいずれも高等学校1年生) の結果を基に作成。

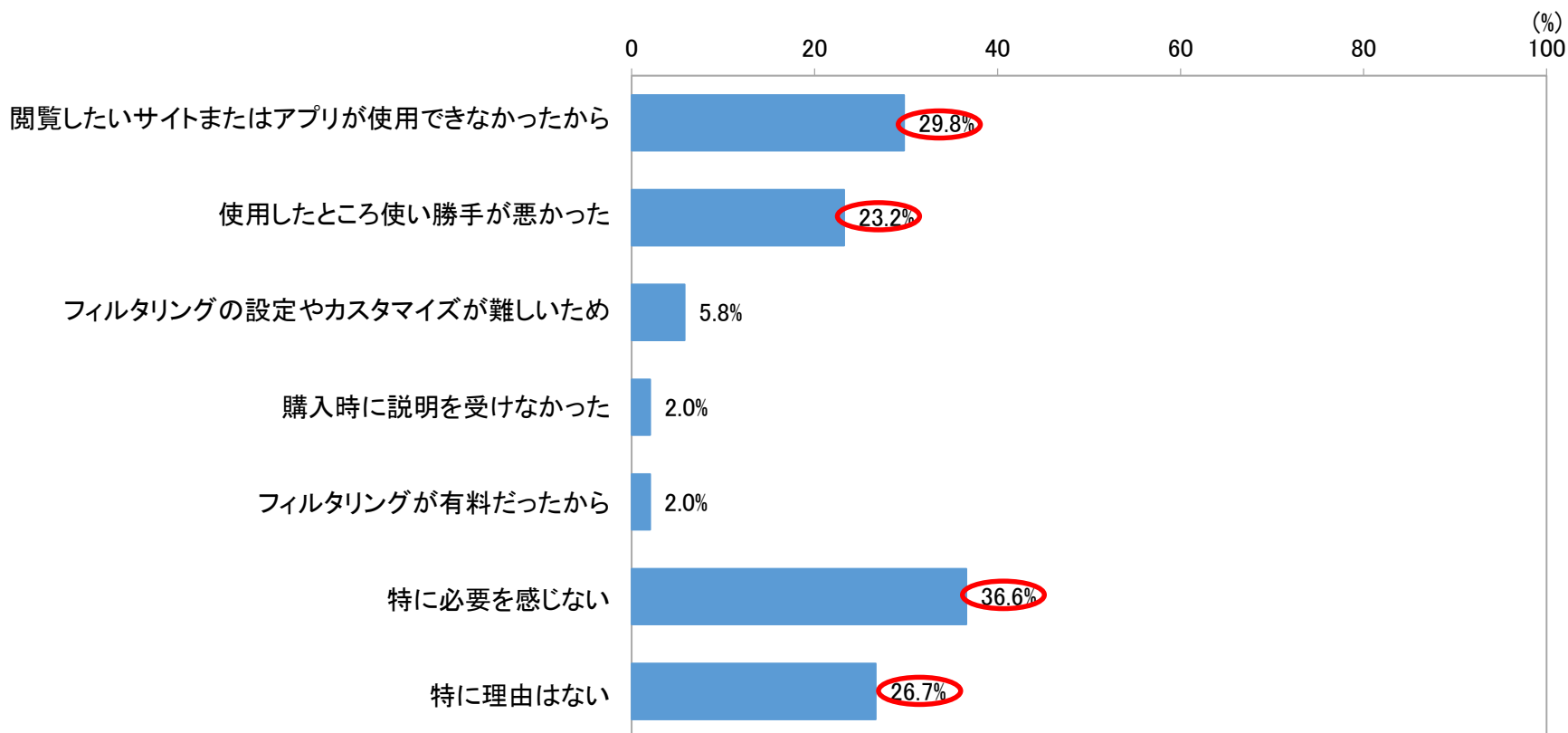
5. フィルタリング利用状況（フィルタリングを利用しない理由）

- 現在フィルタリングを利用していない理由については、「特に必要を感じない」が最も多く（36.6%）、次いで「閲覧したいサイトまたはアプリが使用できなかったから」（29.8%）、「使用したところ使い勝手が悪かった」（23.2%）の順で高い。なお、「特に理由はない」が26.7%を占めた。

【図表】 フィルタリング非利用理由(複数回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者のうち、フィルタリングを現在利用していない者ベース、n=3,724)

現在、フィルタリングを利用していない理由をお答えください。



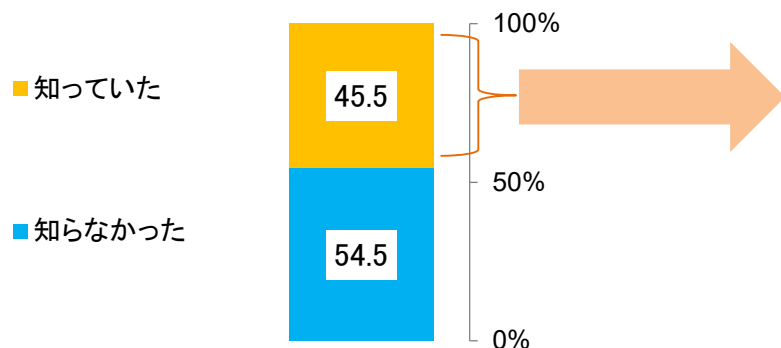
5. フィルタリング利用状況(カスタマイズ機能の認知と利用状況)

- 一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、フィルタリングのカスタマイズ機能により一部のSNSを利用できることを認知しているのは45.5%であった。【図表1】
- カスタマイズ機能を認知している場合、カスタマイズを利用している人は38.3%であった。【図表2】
- カスタマイズ機能を認知している場合のフィルタリング利用率は53.1%であり、認知していない場合のフィルタリング利用率(44.9%)と比較して高い。【図表3】

【図表1】カスタマイズ機能の認知(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース、n=9,721)

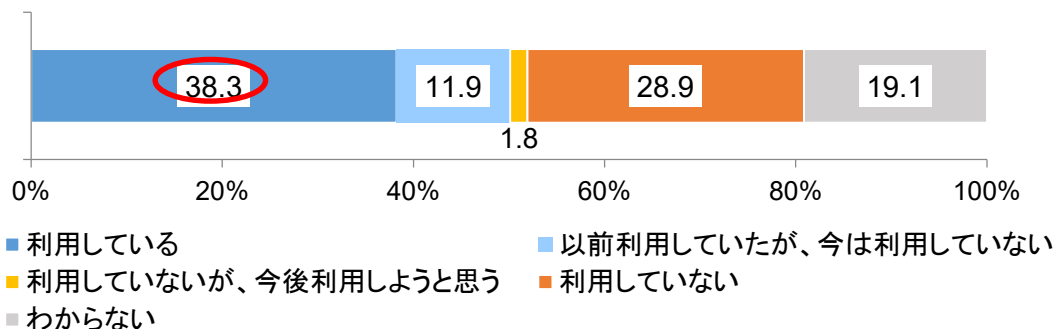
あなたは、フィルタリングを掛けていても、高校生プラスモードの選択やカスタマイズにより、一部のSNSを利用できることを知っていましたか。



【図表2】カスタマイズ機能認知者のカスタマイズ機能の利用状況(択一回答)

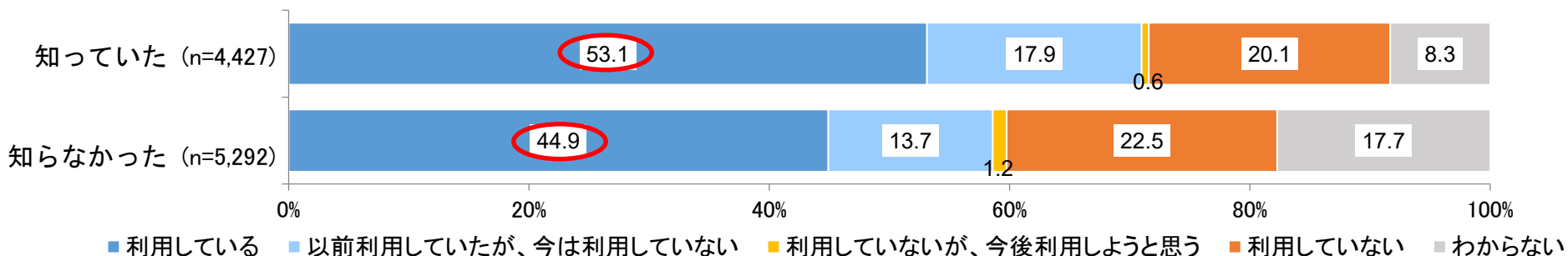
(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者で、カスタマイズ機能を認知している者ベース、n=4,426)

あなたは、モードの選択やカスタマイズにより、自分に適したフィルタリングの設定にできる機能を利用していますか。



【図表3】カスタマイズ機能を認知している高校生のフィルタリング利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリング機能を「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



5. フィルタリング利用状況（フィルタリング利用状況別スマートフォン利用時間）

- フィルタリングを利用している高校生については、スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間が2時間未満が多く（29.6%）、フィルタリングを利用していない層に比べて多い。【図表1】
- 平日ほど顕著ではないものの、スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は、フィルタリングを利用している高校生は、利用していない高校生に比べて、2時間未満が多くなっている。【図表2】

【図表1】フィルタリング利用状況×1日のスマートフォン利用時間(平日) (択一回答)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上	(参考) 2時間未満計	(%)
全体 (n=12,321)	5.1	19.0	27.1	19.5	11.8	7.3	10.1	24.2	
フィルタリング利用している (n= 5,170)	7.0	22.6	28.6	18.3	10.1	6.1	7.4	29.6	
フィルタリング利用していない (n=2,473)	3.5	15.9	25.1	20.0	12.3	8.7	14.6	19.4	
以前利用していたが、今は利用していない (n=1,639)	3.5	16.7	24.2	21.0	13.7	9.3	11.6	20.2	
利用していないが、今後利用しようと思う (n= 123)	5.7	22.8	29.3	20.3	8.1	4.9	8.9	28.5	
わからない (n= 2,394)	3.9	16.2	28.5	20.7	13.2	7.2	10.2	20.1	

【図表2】フィルタリング利用状況×1日のスマートフォン利用時間(休日) (択一回答)

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上	(参考) 2時間未満計	(%)
全体 (n=12,311)	1.9	6.6	14.7	19.2	16.1	13.4	28.0	8.5	
フィルタリング利用している (n= 5,162)	2.2	8.2	17.3	20.4	16.4	12.2	23.2	10.4	
フィルタリング利用していない (n= 2,472)	1.9	5.5	12.5	17.5	14.8	12.4	35.4	7.4	
以前利用していたが、今は利用していない (n=1,638)	1.5	5.7	13.1	17.7	15.9	14.0	32.1	7.2	
利用していないが、今後利用しようと思う (n=123)	0.8	11.4	13.8	22.8	15.4	17.1	18.7	12.2	
わからない (n= 2,394)	1.4	4.8	12.5	20.0	17.5	15.6	28.2	6.2	

5. フィルタリング利用状況

(ペアレンタルコントロール機能に対するイメージと利用状況)

- スマートフォンを保有し、一定程度フィルタリングを認知している高校生のうち、ペアレンタルコントロール機能について、62.9%は「スマートフォンの使い過ぎの防止等に役立つもの」と肯定的に捉えているが、9.1%は「保護者に利用時間を管理・制限されてしまう邪魔なもの」という否定的に捉えている。

【図表1】

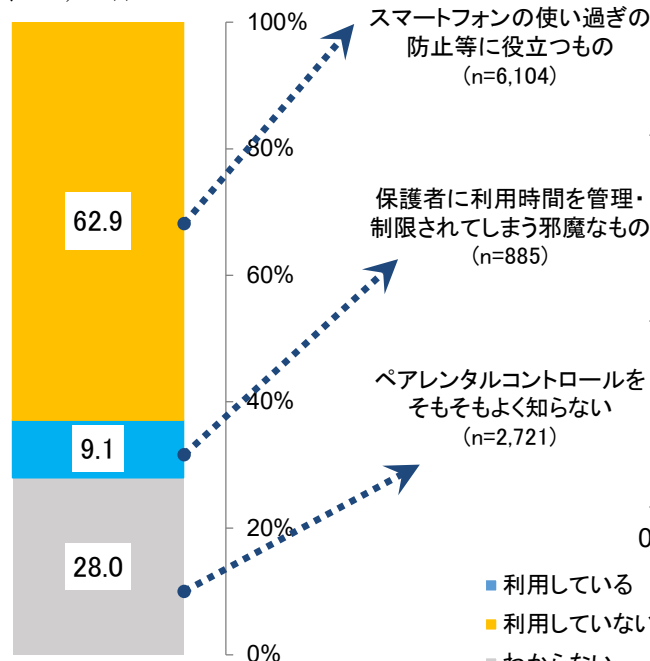
- ペアレンタルコントロール機能を肯定的に捉えている高校生の51.5%、否定的に捉えている高校生の42.8%がフィルタリングを利用している。一方で、ペアレンタルコントロールに肯定的なイメージも否定的なイメージも持っていない高校生のフィルタリング利用率は44.2%である。【図表2】

【図表1】 ペアレンタルコントロールに対するイメージ(択一回答)

あなたは、ペアレンタルコントロールに対してどのような認識を持っていますか。

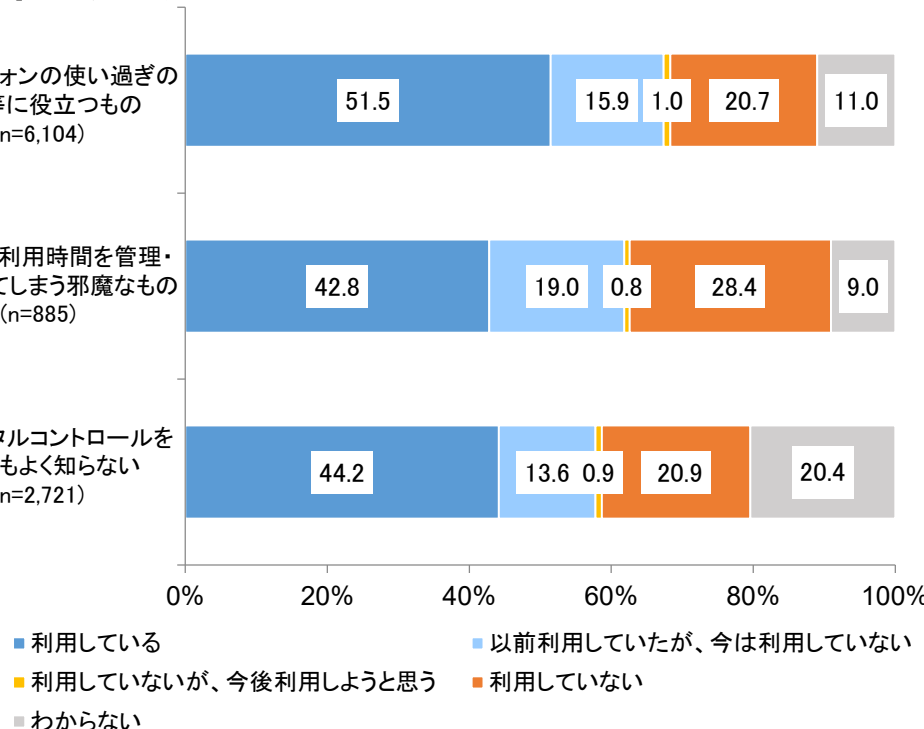
(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース、n=9,712)

- スマートフォンの使い過ぎの防止等に役立つもの (n=6,106)
- 保護者に利用時間を管理・制限されてしまう邪魔なもの (n=885)
- ペアレンタルコントロールをそもそもよく知らない (n=2,721)



【図表2】ペアレンタルコントロールに対するイメージごとにおけるフィルタリング利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート (対象はいずれも高等学校1年生) の結果を基に作成。

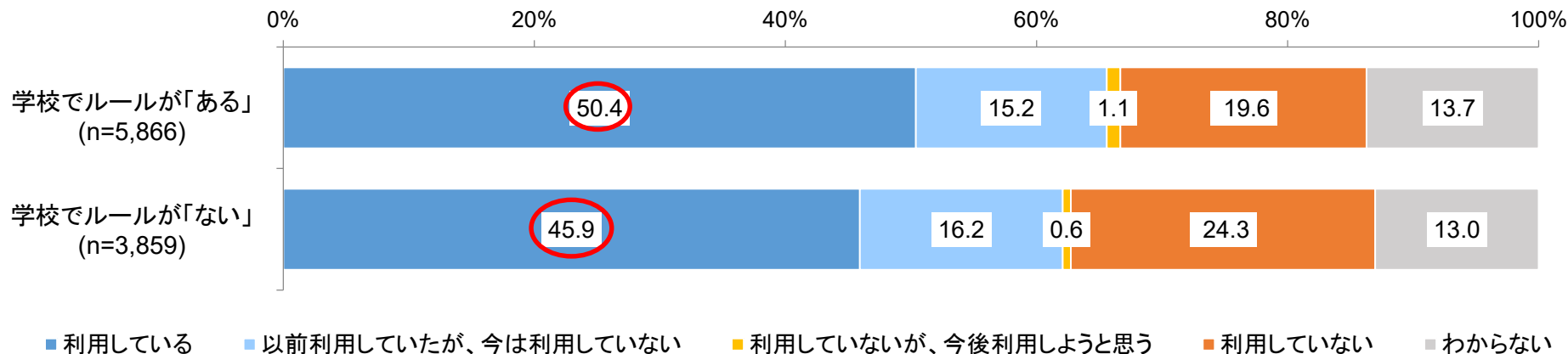
5. フィルタリング利用状況

(学校・家庭でのSNS等のルールとフィルタリングの利用状況)

- 学校におけるSNS等のルールがある場合、フィルタリング利用率は50.4%であり、ルールがない場合の利用率(45.9%)と比較して高い。【図表1】
- 家庭におけるSNS等のルールがある場合、フィルタリング利用率は60.0%であり、ルールがない場合の利用率(34.1%)と比較して著しく高い。【図表2】

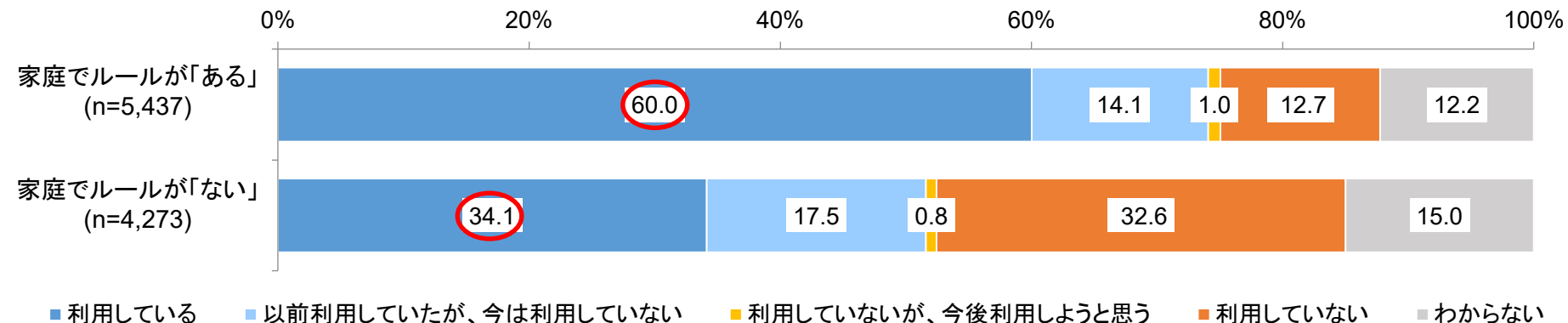
【図表1】学校のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



【図表2】家庭のインターネット利用ルールの有無とフィルタリングの利用状況(択一回答)

(スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース)



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

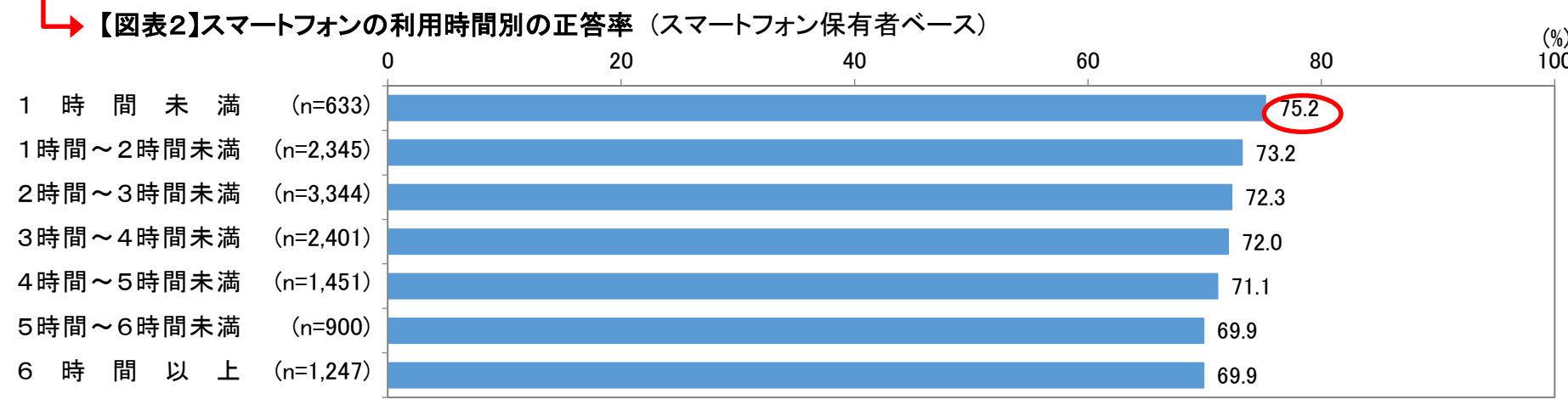
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （平日1日当たりの平均利用時間）

- スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は、2時間～3時間未満の割合が最も多く(27.1%)、他の機器に比べて利用時間が長い。また、75.8%がスマートフォンを2時間以上利用している。【図表1】
- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間1時間未満が最も高く(75.2%)、利用時間が長いほど概ね正答率が低下する傾向にある。【図表2】

あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図表1】 平日1日当たりの平均利用時間(択一回答) [各機器保有者における割合：%]

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン (n=12,321)	5.1	19.0	27.1	19.5	11.8	7.3	10.1
携帯電話/PHS (n=234)	75.2	10.3	6.0	3.4	2.1	0.4	2.6
タブレットPC (n=3,866)	66.9	18.1	7.8	3.3	1.6	0.7	1.5
ノートPC/デスクトップPC (n=3,397)	71.9	14.6	6.7	3.1	1.5	0.9	1.2
携帯ゲーム機/固定ゲーム機 (n=8,434)	74.8	13.8	6.1	2.3	1.4	0.6	1.1
携帯音楽プレイヤー (n=1,818)	76.3	14.6	4.7	1.5	0.8	0.7	1.4



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。 20

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計）

（休日1日当たりの平均利用時間）

- スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は、6時間以上の利用が最も多く（28.0%）、他の機器に比べ利用時間が長い。また、41.4%がスマートフォンを5時間以上利用している。【図表1】
- スマートフォンの利用時間別の正答率では平均利用時間1時間未満が最も高い（75.2%）が、平均利用時間1時間以上では、利用時間の長さとは正答率に相関関係が確認できない。【図表2】

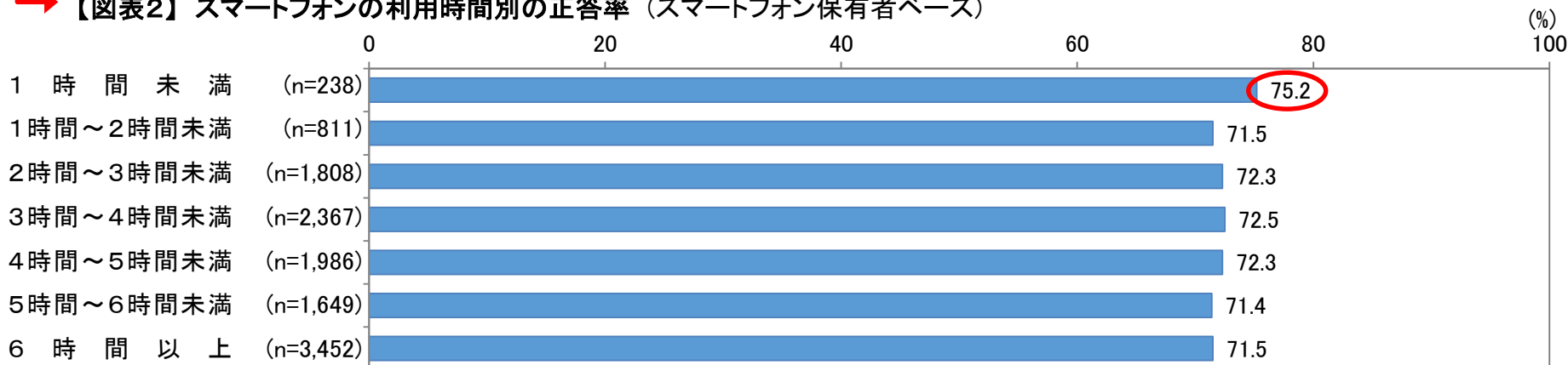
あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

【図表1】 休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

[各機器保有者における割合：%]

	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン (n=12,311)	1.9	6.6	14.7	19.2	16.1	13.4	28.0
携帯電話/PHS (n=234)	73.9	7.3	5.1	5.1	2.1	2.1	4.3
タブレットPC (n=3,862)	57.1	18.7	8.8	5.5	3.8	1.7	4.4
ノートPC/デスクトップPC (n=3,399)	62.0	15.4	8.5	4.4	3.3	1.4	4.9
携帯ゲーム機/固定ゲーム機 (n=8,438)	61.9	17.1	8.6	4.7	2.5	1.5	3.8
携帯音楽プレイヤー (n=1,814)	71.4	15.0	5.8	3.4	1.0	0.7	2.6

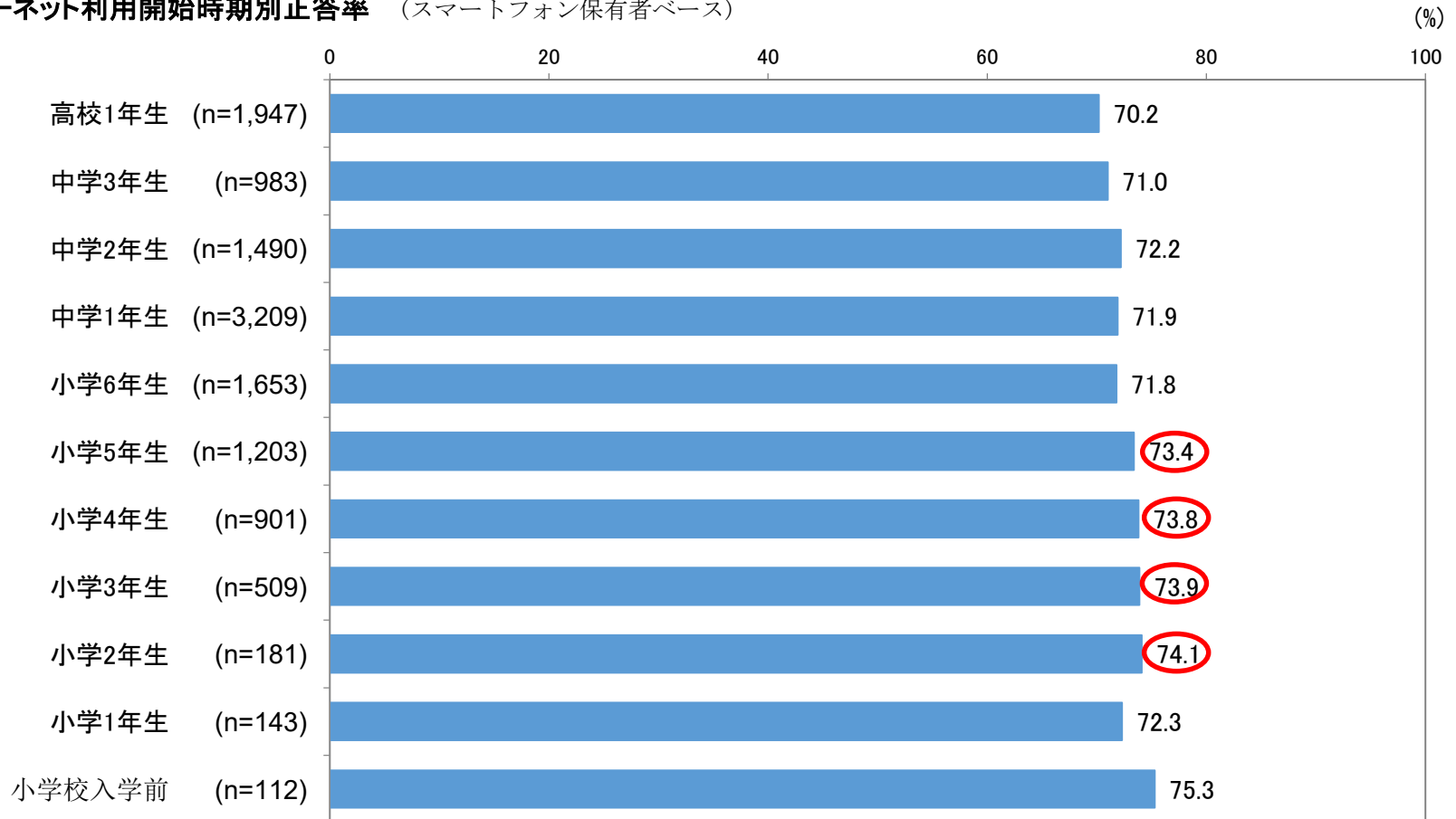
【図表2】 スマートフォンの利用時間別の正答率（スマートフォン保有者ベース）



6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （インターネット利用開始時期）

- インターネットを自由に利用し始めた時期とILASの正答率については、小学校2年生～5年生で開始した高校生の正答率は73～74%台とやや高い傾向にある。

【図表】インターネット利用開始時期別正答率（スマートフォン保有者ベース）



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」回答した高校生は少数(n=6)であることから分析対象から排除した。

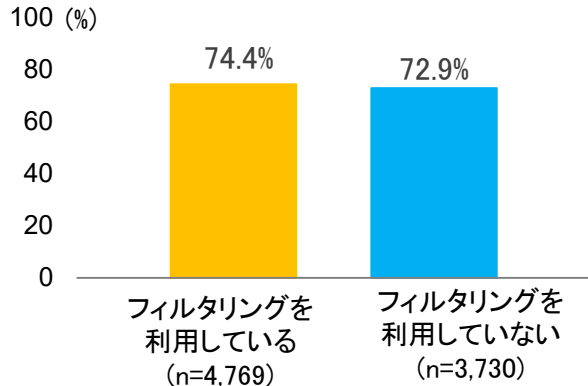
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート（対象はいずれも高等学校1年生）の結果を基に作成。

6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計） （フィルタリング利用と家庭でのルール）

- フィルタリングを利用している高校生（正答率：74.4%）の方が、フィルタリングを利用していない高校生（正答率：72.9%）に比べ正答率が高い。【図表1】
- 家庭でのルールがある高校生（正答率：73.2%）の方が、ルールがない高校生（正答率：70.8%）に比べ正答率が高い。【図表2】
- 家庭でのルール有無及びフィルタリング利用の有無との関係については、「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合が75.1%と最も高く、いずれも「なし」のケースで72.2%と最も低い。【図表3】

【図表1】フィルタリング利用の有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）



【図表3】家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

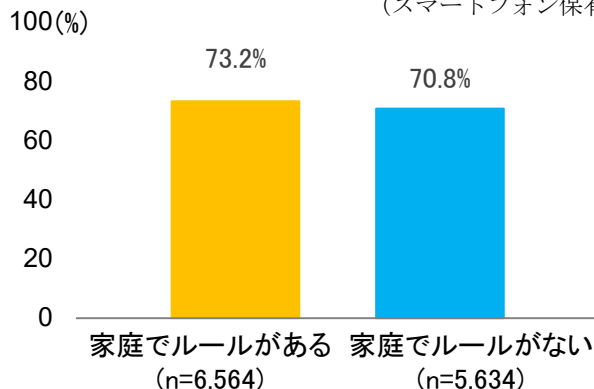
（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
フィルタリング利用	○あり	75.1% n=3,263	73.2% n=1,459
	×なし	74.0% n=1,508	72.2% n=2,173

全体の正答率は：72.0% (n=12,499)

【図表2】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース）



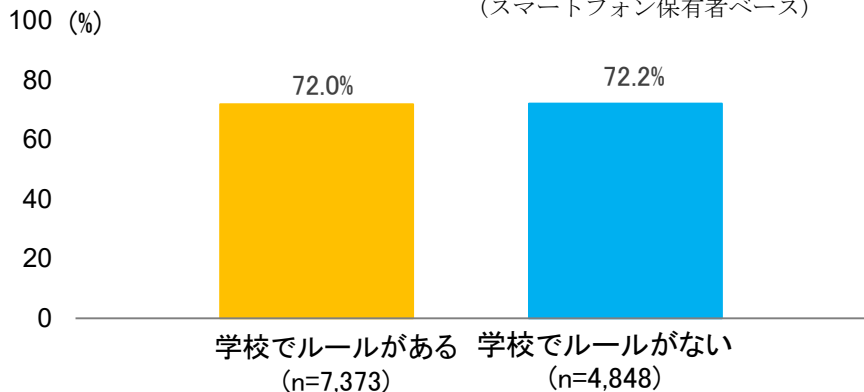
6. 高校生のインターネット利用実態とILAS結果（クロス集計）

（学校での学習やルールと家庭でのルール）

- 学校でのインターネット利用についてのルールの有無別では、正答率に大きな違いはない。【図表1】
- 学校でインターネット利用上の危険について、「通常授業の中で教えてもらった」（正答率：72.8%） 「外部の講師等による特別授業の中で教えてもらった」（73.7%）の正答率は高く、「教えてもらっていない」（正答率：61.7%）と比較すると大きな差がある。【図表2】

【図表1】 学校でのインターネット利用ルールの有無と正答率

（スマートフォン保有者ベース）



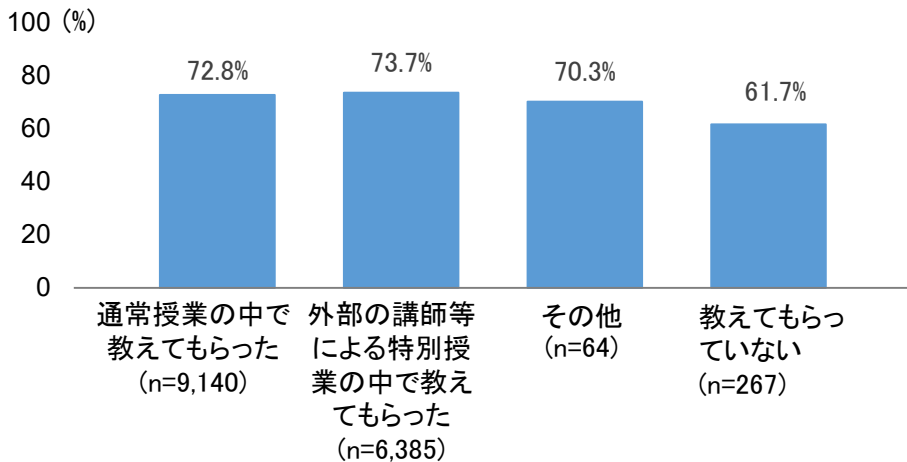
【参考】家庭でのルールの有無及び学校でのルールの有無と正答率

（スマートフォン保有かつフィルタリングを「よく知っている」「多少知っている」と回答した者ベース）

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
学校でのルール	○あり	73.9% n=3,786	72.1% n=2,064
	×なし	75.1% n=1,642	72.3% n=2,200

【図表2】 学校の授業状況と正答率

（スマートフォン保有者ベース）



全体の正答率は：72.0% (n=12,499)

7. 参考（啓発コンテンツ）

○ 本調査結果からは、青少年のスマートフォン（インターネット）の安全・安心な利用に関しては、利用時間の管理、フィルタリングやペアレンタルコントロール機能に係る適切な情報の周知・普及、家庭でのインターネット利用に係るルールづくり等が重要な課題であると考えられます。

このため、これらに関して理解を深める上で参考となる啓発コンテンツを、次のとおりご紹介します。

【インターネットの安心・安全な利用に係る啓発資料関連】

インターネットトラブル事例集（総務省）

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/

上手にネットと付き合おう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～（総務省）

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/

・特集ページ(フィルタリングサービス) https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/filtering/

【青少年フィルタリングや利用時間管理等のペアレンタルコントロール機能等関連】

青少年フィルタリング及び海賊版対策に係る普及啓発動画「フィルタリングサービス『NEWヒーロー？』編」

<https://youtu.be/NBbbHdoRK1I> （ショート版:<https://youtu.be/AU8WaeRLXac>）

子どもとネットのトリセツ（一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会）

<https://www.kodomo-safety.org/>

青少年の携帯電話利用について（一般社団法人 電気通信事業者協会）

<https://www.tca.or.jp/mobile/approach.html>

MVNOスマートフォン安心安全ガイド（一般社団法人 テレコムサービス協会）

<https://www.telesa.or.jp/mvno-spaa-guide>

【インターネット利用に係る家庭内ルール作成関連】

SNS利用ガイドライン・家庭内ルール作成のすすめ（一般社団法人 安心ネットづくり促進協議会）

<https://www.good-net.jp/safe-internet/guideline/>

7. 参考 (ILAS)

○ 総務省のインターネットの安心・安全な利用に関する啓発ウェブサイト「上手にネットと付き合いおう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～」の特集ページにILASについて取り上げています。

上手にネットと付き合いおう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～（総務省）

特集ページ(青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査)

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/

上手にネットと付き合いおう！
安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小

ENHANCED BY Google

総務省

未就学児・未就学児の保護者 青少年(U18) 保護者・教職員 シニア インターネットトラブル事例集 **特集ページ** 動画コンテンツ集 リンク集

TOP > 特集ページ > 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査

特集ページ

青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査 —ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) —

総務省では、青少年のインターネット・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発しました。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施しています。

青少年に必要なリスク対応能力の分類

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）について、以下のように分類。

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
1 違法有害情報リスク		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2 不適正利用リスク		
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3 プライバシー・セキュリティリスク		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を回りに利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。